

教育成果に向けた情報環境の整備状況と今後の計画

平成29年7月28日

公益社団法人私立大学情報教育協会

教育成果に向けた情報環境の整備計画 情報環境整備による主な教育成果	教育成果に向けた情報環境の整備状況			整備計画		
	整備	未整備	回答合計	平成30年度に整備を計画	平成31年度に整備を計画	平成30-31年度に整備を計画
1. 授業内容の可視化 例1 ネット上のシラバスに授業の事前準備や事後の展開に必要な学修の方法を掲載し、授業の進め方、評価方法、到達目標、学力との関連性などの明確化。 例2 授業改善の取り組みを進めるために、ネット上で教員・職員・学生が意見交換。	151	215	366	124	84	208
	41%	59%				※ 複数年度での整備計画あり
2. 事前・事後学修の充実 例1 ネット上に事前・事後の教材・課題、小テストなどを掲載し、eラーニング。 例2 事前に講義内容の映像を配信して反転授業で知識を伝達し、教室のALで知識の定着・確認。 例3 LMS（学修支援システム）などを用いて課題提示を行い、グループ学修させた上で、その成果をLMS上で相互評価し、教え合いする中で知識の定着・確認。	92	276	368	124	110	234
	25%	75%				※ 複数年度での整備計画あり
3. 授業方法の改善 例1 学修の理解度をクリッカーや携帯端末を用いてスクリーンに表示し、教員と学生、学生同士双方向で質疑や議論を行い、知識の定着・活用。 例2 グループ学修を掲示板を介して行い、グループ間で意見発表・評価し、振り返りを行うことで、知識の活用・創造。 例3 異分野の学生がネット上で知識を組合せ、発想・構想する分野横断によるフォーラム型の授業。 例4 優れた授業コンテンツを活用するために、MOOC等を積極的に利用。 例5 学びの動機付けを図るため、ネットを通じて地域社会、企業などからの現場情報を授業で活用。 例6 文字や説明では理解が難しい理論や現象を図・アニメーション・映像を利用したり、概念理解の形成を促進するシミュレーションなどを活用。	42	325	367	135	119	254
	11%	89%				※ 複数年度での整備計画あり
4. 大学間・産業界・地域社会との連携 例1 大学間や教員間でネット上で連携授業を行い、多面的な学修を展開。 例2 産業界・地域社会とネットで連携し、課題探求型の実践的な学修を行い、学修成果について外部の専門家などの第三者評価を受ける。	12	351	363	71	83	154
	3%	97%				※ 複数年度での整備計画あり
5. 学修成果の点検・評価・改善 例1 eポートフォリオなどの支援システムで学修行動・学修状況を観察し、個人指導を行いながら学修成果を確認。 例2 ルーブリック評価の内容を改善するため、評価基準をネット上でオープン化し、学生からの意見を反映。 例3 授業評価の結果を踏まえて改善を図り、その内容をeシラバスに反映。	45	322	367	143	120	263
	12%	88%				※ 複数年度での整備計画あり